

## 平成28年度 社会福祉施設と地域がつながるボランティア体験講座 アンケート 集計

1. 講義「社会福祉施設でボランティアを受入れる意義とめざす地域共生のカタチ」において、参考になったこと等、意見や感想。
  - 地域の方を含めて、利用者様を支えていける環境づくり。
  - 施設をよりよく知ってもらえる。
  - 双方が満足できるようにボランティアの受け入れをしていきたい。
  - ボランティアを受け入れる事で、自分の施設を知ってもらえる。(どんな利用者がいて、どんな職員が働いているか、どんな業務をしているか)
  - 地域の方とも協力して利用者を支えていけることにつながる。
  - ボランティアにとどまらず、「入職したい」と思ってもらえるような環境を整えたいと思った。
  - 新しい仲間を迎えるチャンスになればと思う。
  - ボランティアを受け入れるにあたり事前に準備をしておかないといけなことがいろいろある。
  - 双方にとってニーズのマッチングの必要性。
  - ボランティア=地域とのつながり強化。
  - 今までボランティアの受け入れと聞くと、特別な事をしてもらうためにきてもらうというように認識していた。今回の講義を聞いて自分たちの普段の業務を手伝ってもらったりする事によって余裕を持って利用者さまと関わる手助けをして下さるという受け入れもあるのだと学んだ。
  - 職員が意識を統一しなければ上手くいかないことを感じた。
  - 意思疎通を図ることでウィンウィンの関係を築ける事が分かった。
  - ボランティアを受け入れるという事は施設側にもボランティア側にもメリットが多くあるが、受け入れ窓口となる担当者を決めたり、マニュアルを作成したり、と事前に体制を作っておくことが必要だと知り、ボランティアを受け入れる事の大変さを知った。
  - ボランティアを受け入れるマニュアルが必要だが、どこまで力をいれて受け入れをするのか施設内でのすりあわせも必要。
  - ボランティア活動を正しく理解し、その受け入れる目的や意義についてこのような機会に考えてみることは自分自身の意識改革になったと思う。提供する側、受ける側さらには利用者様にとってもプラスとなるようにとする活動は、受け入れ体制を整え(その場限りでない)継続的な先を見据えたものでなければならないと知ることができた。
  - 社会福祉法人に勤務していることの意義や立場を改めて責任のようなものを感じた。
  - ボランティア受け入れの体制を確立することで施設にとっても地域にとってもプラスになる。またそうしていくことが現在の問題解決に向かうひとつなのだと強く認識することができた。
  - ボランティアで来てくださった方に日々の簡単なルーチン業務を手伝って頂くことによってレクリエーションやお菓子づくりができる機会が作れるのだと思った。
2. 演習「社会福祉施設におけるボランティアの受け入れ、地域とのつながりづくりのすすめ方」において、参考になったこと等、意見や感想。
  - 活動メニューを職員同士で話を進めていけてよかった。ボランティアのニーズも把握して今後も活動メニューを考えていきたい。
  - 日々やっている業務の中で、自分たちがどの部分を手伝ってほしいかが明確になった。
  - こちらが求めるものだけでなく、ボランティアの求めるニーズにも併せて応えることが重要。
  - ボランティアから地域の活動の輪が広がりよりよい活動につなげたい。
  - 自分が数十年前に他施設へボランティアに行ったとき、受け入れ体制ができていなかったのか「1日中コミ

コミュニケーションをとってください」と言われたことがあった。人見知りだった自分はとてもつらかった思い出がある。計画して受け入れてもらえたらもっと違う面が見られたのかもしれないと思う。

- 今回ボランティアに参加される方のイメージがあまり浮かんでこなかった。継続的に実施できる内容であるか否か2日目の結果を期待したいと思う。
- 対等な関係で連携し、協働することができるように調整する。お互いのニーズを上手につなぐ事の重要性。
- ただ、お手伝いをさせていただきだけでなく、楽しみをもってさせていただくことが必要で考えないといけない事だと感じた。
- ボランティアを受け入れる際にきちんとコーディネートをしてお互いが良いと思える活動が行えるようにすり合わせる事が重要だと感じた。また、継続して関わることによって地域との繋がりがもっていけるので来て下さる方にまた来たいと思えるような取り組みがしていけるとよい。
- ボランティア受け入れがゴールではなく、継続する事で意味を成してくるのかと思う。
- ボランティアの人に喜んでもらえるような企画をたてようとする事前準備が大変になり、施設側に負担がかかる。施設での業務を中心にやってもらうと企画すると、ボランティアの人に満足していただけるものなのかわからない。やってもらいたいことはたくさん見つかったも、企画をたてて実行しようとすることは大変なんだと思った。
- ボランティアを受け入れる事によって、自分たちの仕事にもっと理解してもらえるいい機会であり、地域とのつながりはそれが第一歩になると思った。
- ボランティアの受け入れは受け入れる施設とボランティアの双方にだけ利点があるものだと考えていましたが、上手くいけば地域公益活動にもつなげることができるんだとわかった。
- 大きい行事をするために日々の小さな仕事をボランティアの方にさせていただくという意見が上がったときにすごく納得できた。
- 職員が困っている事にボランティアの力をお借りする事は賛成だが、企画案がなにか掃除や洗濯、車イス清掃ばかりで残念な気持ちがあった。地域と協働してボランティアの支援を受けながらつながりのあるプロジェクトになっていくような取り組みができればいいと思う。

### 3. その他、本講座における意見や感想。

- 双方が満足いける内容にするために受け入れる側として準備、職員ひとりひとりが意識して取り組めるようにしたい。
- グループワークとして「ボランティア活動メニュー」を考えたが、「今求めるもの」「今後求めたいもの」によってメニューも異なり6つのグループの中でも「今」「今後」で意志が様々だった。このように、まだまだボランティアの受け入れに対しまだまだ思いや意思がばらばらで方向性が定まっていないように感じた。ボランティアの方をしっかりと植え入れる体制作りが急がれると感じた。
- 話しあう時間が少なかった。最後までみんなで作成し、完成させたかった。
- 演習を行う前に当施設としての受け入れる方針を統一させておく必要があると感じた。
- 受け入れ体制を整えば地域との関係は今以上につながれると思う。興味をもたれている方は多くいらっしゃると思うのでボランティアにさせていただきたいことを明確にし、協力体制を早急に構築していく必要性を感じた。
- 自分たちデイサービスでも学生の実習生への受け入れを行っているが、(ボランティアとは少し異なるが)受け入れのマニュアルを作成し、対応する職員も共通の認識をもってあたる必要があると感じた。今までなんとなく…だった部分が少し具体化されるきっかけとなった。
- 体験講座としてのボランティアなのか、普段どおりのボランティア企画なのかかわからず考えたものの、結果的、普段どおりとのことでそれならここまでグループワークする必要があるので疑問。ボランティアに期待するレベルの意識統一が必要。